



スタンプラリー(かかしまつり)

「いしばしイベントめぐりスタンプラリー」は、下野市市民活動支援事業ができたことを機に、個々に事業展開していた3つの団体が「石橋地区イベントめぐり実行委員会」として協働で取り組んでいる事業です。3つの団体が夏に行うイベントの実施日が近かったことから、同日開催することにしました。

1つ目の事業は、神社本庁のモデル事業として下野市下古山地区にある星宮神社が始めた、「古山のかかし祭り」です。企画と運営は、下野市体育協会・JA女性会・氏子総代会・若星会(氏子の若手)・太々神楽(だいだいかぐら)保存会などが参加する「かかし祭り実行委員会」により行われています。今は田んぼのあぜ道となっている神社の旧参道に、幼稚園・学校・芸術分野の大学から募集したかかしを展示、NHKでも放映されるなど、地域ではお馴染みのイベントとなっています。

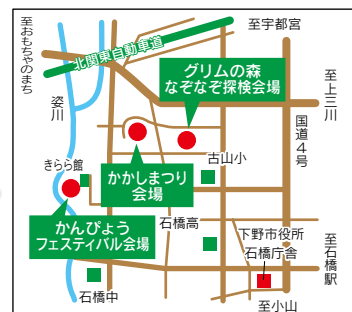
2つ目の事業は、財団法人グリムの里いしばしの自主事業の一つとして、夏休みに行われている「グリムの森なぞなぞ探検」です。グリムの森の中で、親子で謎解きをして自然に親しんでもらうネイチャーゲームです。

3つ目の事業は、「しもつけ地域活性化委員会」が実施する、平成26年に第5回目を迎えた「かんびょうフェスティバル」です。下野市はかんびょう生産量日本一を誇りますが、かんびょうの伝統文化の継続に危惧し、かんびょうむぎ体験などを通じて、子どもたちに伝承する活動を行っています。また、かんびょうの6次産業化にも力を注いでいます。

このように、これまで別々に開催していた3つの事業を、石橋地区イベントめぐり実行委員会が出して各会場を結んだり、広報活動を協働で行うことにより、参加者は3つのイベントを同時に楽しむことができ、相乗効果で参加者も増加しています。また、地域の一つの活動として行うことで、地域で活動する方々の交流も深まり地域力の向上にも繋がっています。

いしばしイベントめぐりスタンプラリー

～つながる地域力(かかしとグリムとかんびょう)～



地域で個々に事業展開するイベントどうしが、スタンプラリーという形で手を携えることによって地域の魅力度をアップさせ地域を活性化させた事例です。

第10条(協働) 市民、議会及び市は、まちづくりを推進するために、それぞれの立場を理解し、目的を共有し、相互に依存することなく力を合わせて、その実現に努めるものとする。

2 市は、市民の自主的なまちづくり活動を促進するために、必要な支援を行わなければならない。